

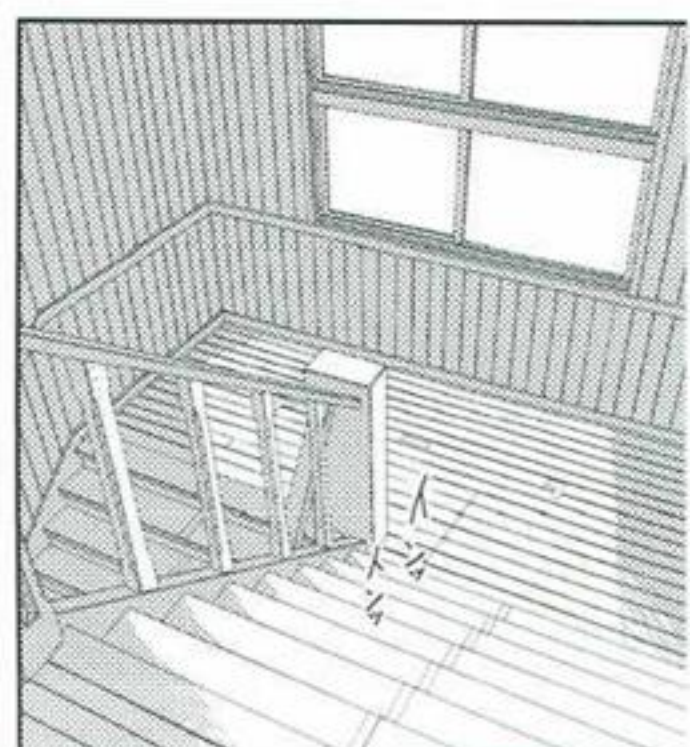
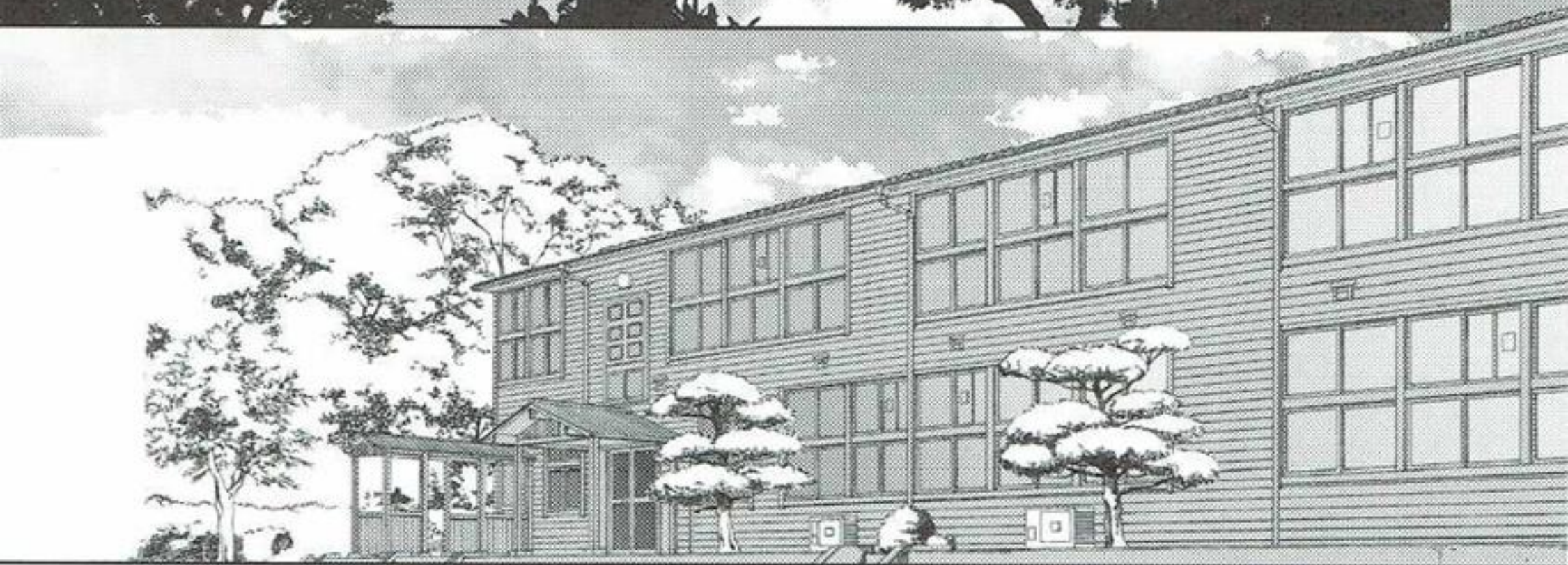
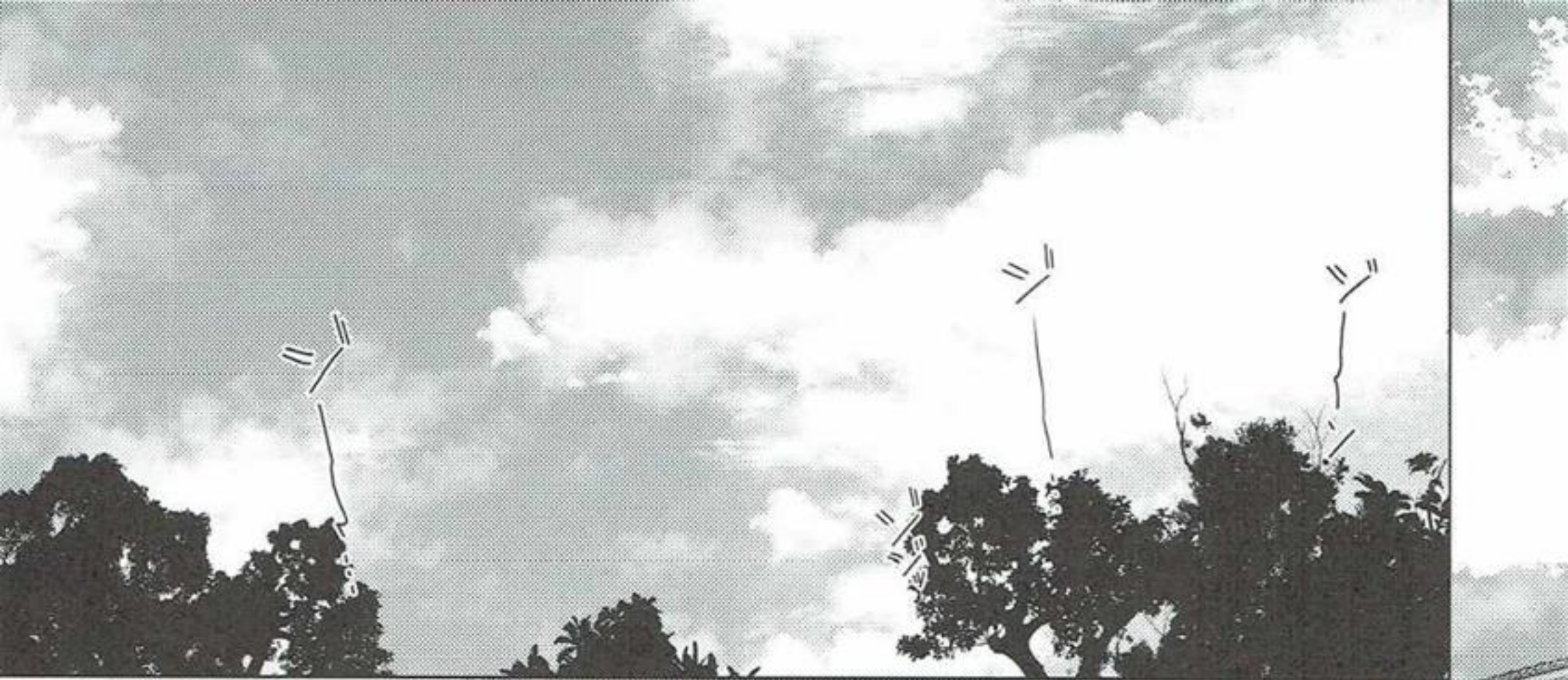


銀
官

か
な
め

1947.6

日本



いや、まだだよ

ならさっさと
着替えてこい

もうすぐ時間だぞ

つれないなあ

スッ

なら少しは
殊勝にしてたらどうだ？

今日くらい
優しくしてくれても
いいのに





やっぱり大きいね



楽にしてあげるよ
いいだろ？

……ああ

ずき...

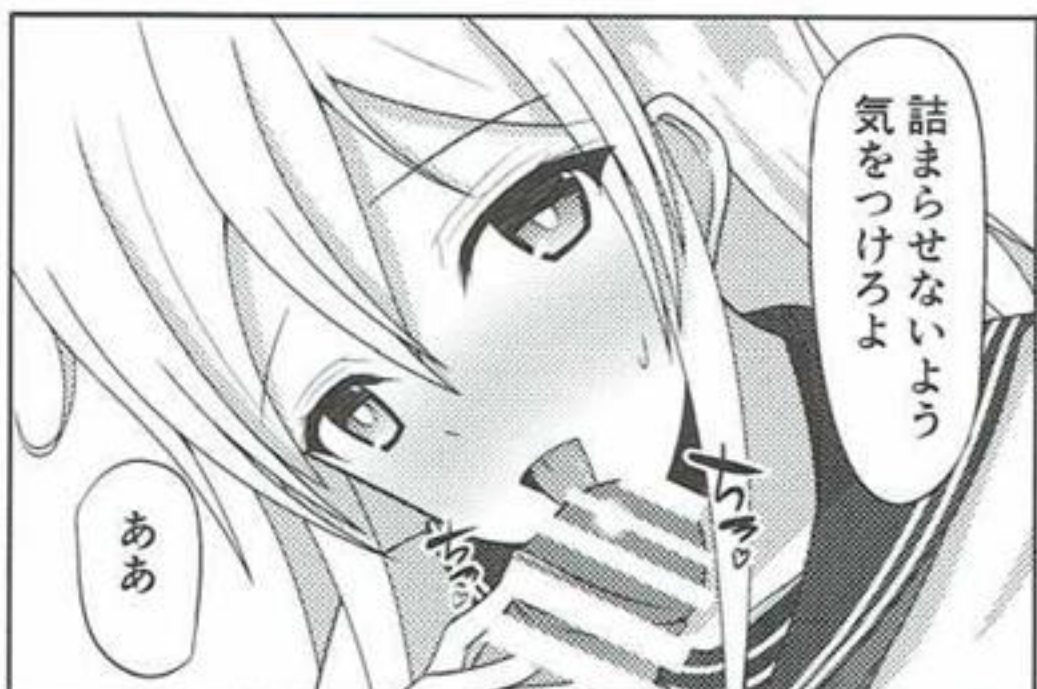


頼むから
勘弁してくれ！

しゅわん

ちゅる

うっかり噛んでも
怒らないでくれよ



詰まらせないよう
気をつけろよ

ああ



噛み切って
飲み込んでしまえば

司令官と
ずっと一緒だな

はっ

怖いこと言うなよ...

冗談さ

半分は、本当だけど

はっ

れん

れん

れん

れん

れん

れん

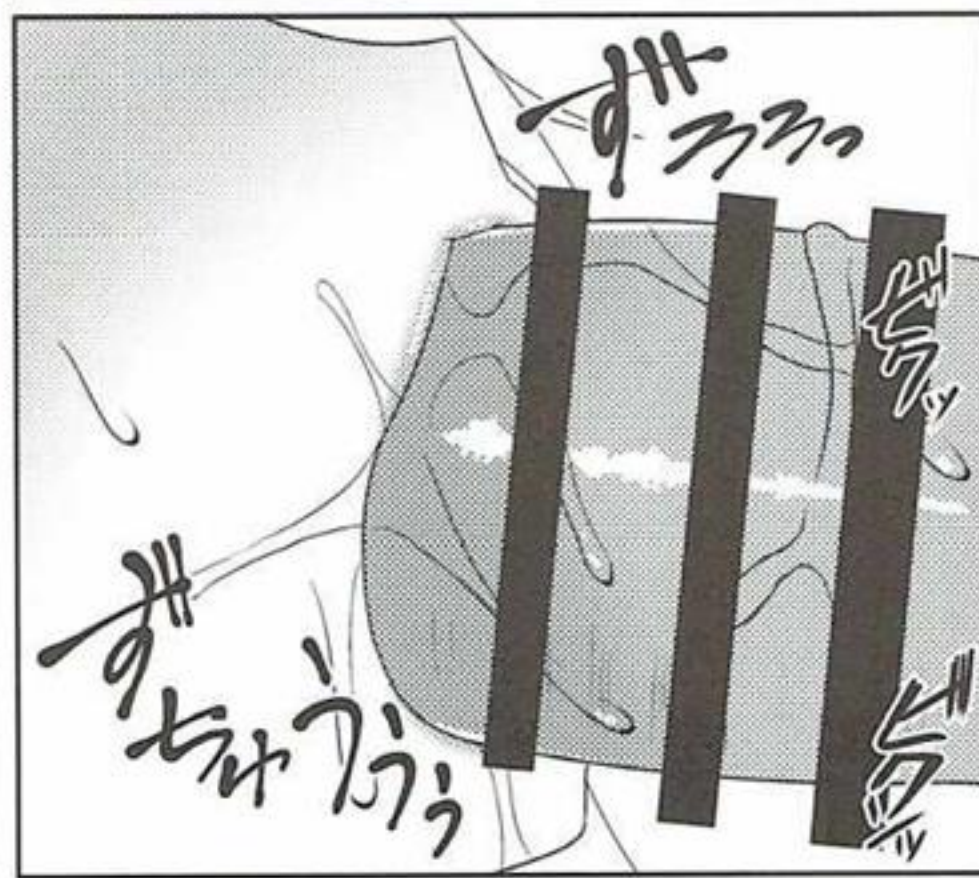
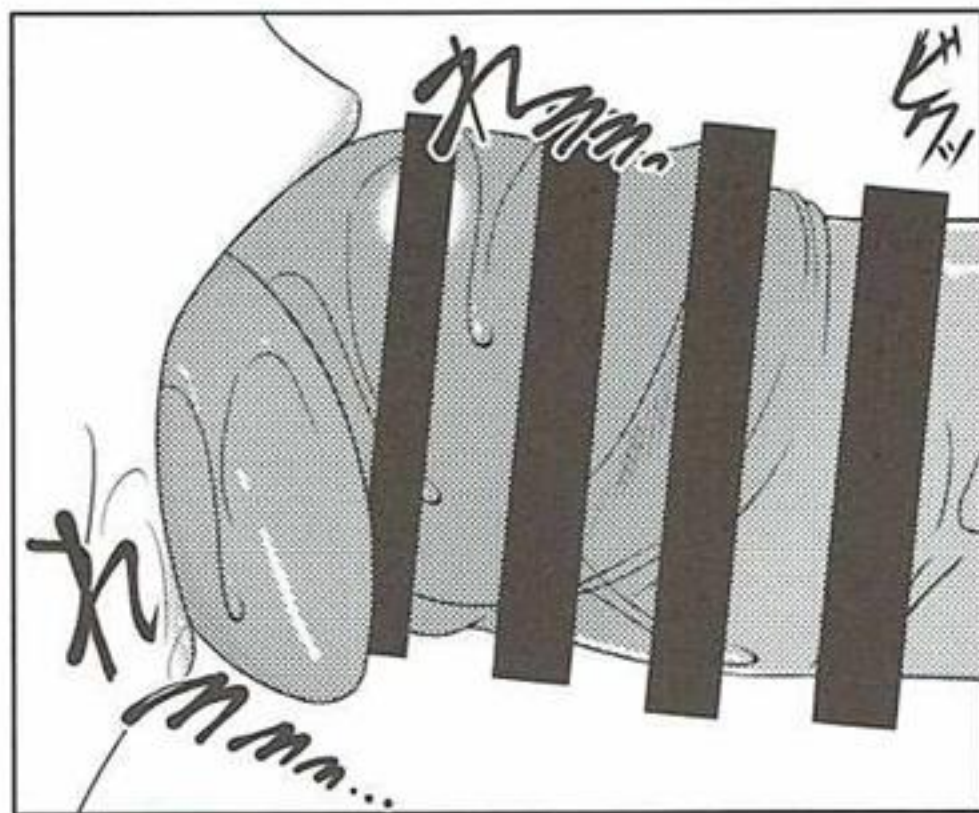
れん

れん

れん

れん

れん





そんな必死になって
飲まなくてもいいんだぞ



出るっ……



飲みたいんだよ
司令官のだから

忘れないように

私の身体すべてで
憶えていたんだ



ぬぽん……

は……

じゃあな……
向こうは寒いから
体に気をつけるよ

寝るときはちゃんと
毛布羽織らないと
風邪ひくぞ

大丈夫だよ、司令官

……ボタン外れてる
とめつあけろよ

これからはずっと
一緒にいられると
思ってたんだけどな……

まさか賠償艦として
ソ連へ渡るとは……

指輪、欲しいって
言えばよかったかな

いつだって
言えなかった
数々を後悔する

愛してる

離れたくない

響……

一緒にいたい

いっそ二人でどこかへ……

逃げてしまいたい

そんな祈りにも似た
言葉を

大丈夫だよ
私はひとりでも

やはり私は
噛み砕けるはずなのに
飲み込んでしまうのだ

……響

きっと
会いに行くから

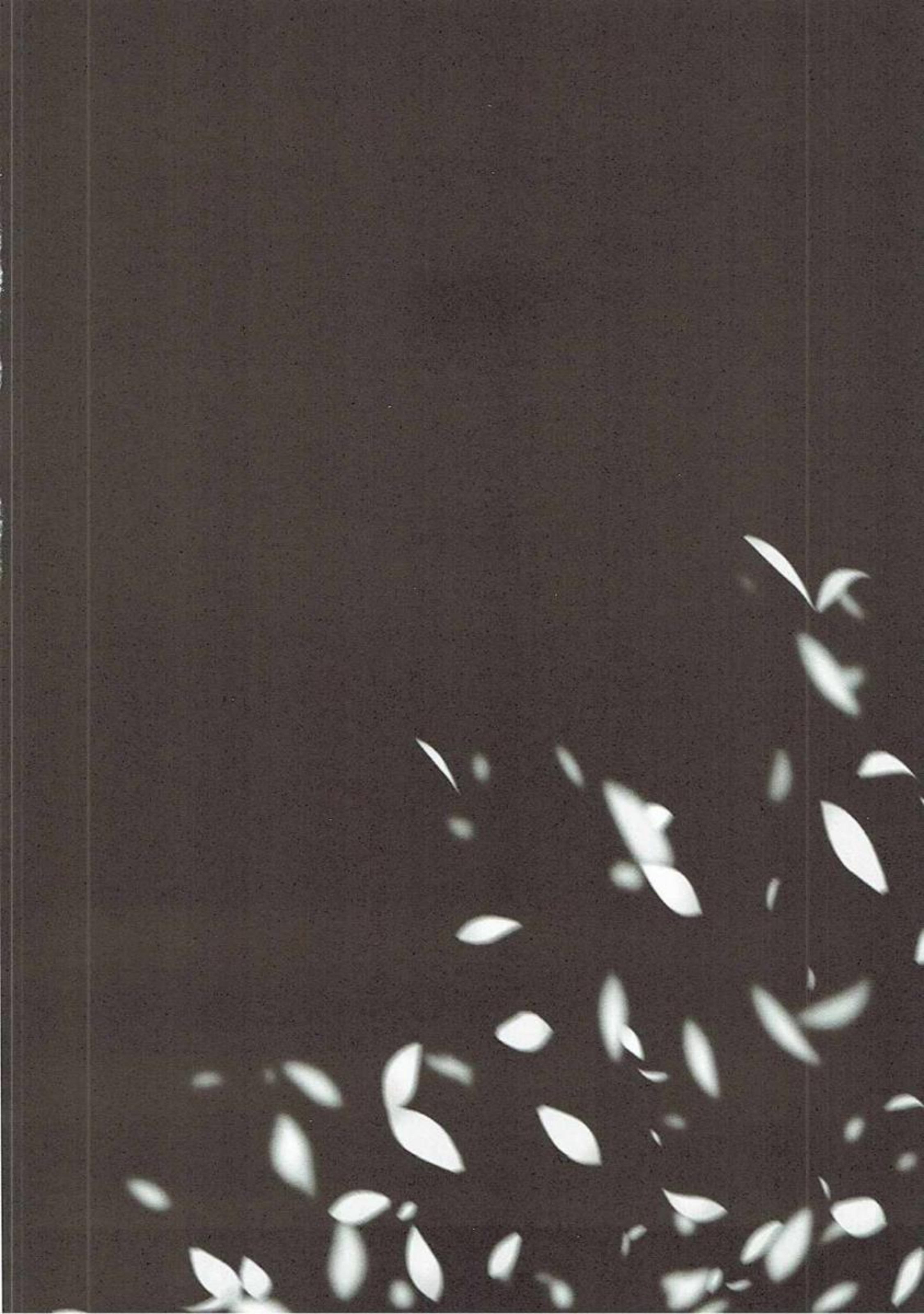
もう逢えないと分かっていた
だから私は、叶わぬ空想を願った

どうすれば

私はずっと君のそばに
いられるのだろうか

さよなら

そばにいられば
死んでもいいのに



1953.2

シベリア



狂ったように扉を叩くから
何事かと開けてみればこれだ



ついてない

はあ

本当に久しぶりだな
まさか逃げた先で会うなんて

私を見るなり
目の色を変えて
襲いかかってきて

可哀想にこの男
気が違っているんだ





まったく……
そんな乱暴に
突かないでくれよ

もう
おしまいだと
思ってたが

錆びついてても
身体はちゃんと
痛むんだ



またおまえを
抱けるなんて
夢のようだよ

うまく
力が入らない

この……
離せ……

最近では記憶も
長続きしないし
視界だって霞んできた



老朽化が
進んでいるせいだ

はー

以前の私なら
思うままになんて
させなかったのに



身体は
動かないけれど

銃かなにかでー

っ！

ホッ



響……響……

逢えて
よかった……

泣きながら
私を犯すのか



想い人か、あるいは妻か
私は彼に
そう映っているようで

それは勘違いだと
言葉が喉元までせりあがる

ああもう……





どうせこの記憶だって
残りはしない

はー！

はー

せーのせーの……

はー

私が受け入れることで
彼が満たされるなら

それくらいは



響っ！

待っ……

勢い……
つよっ……



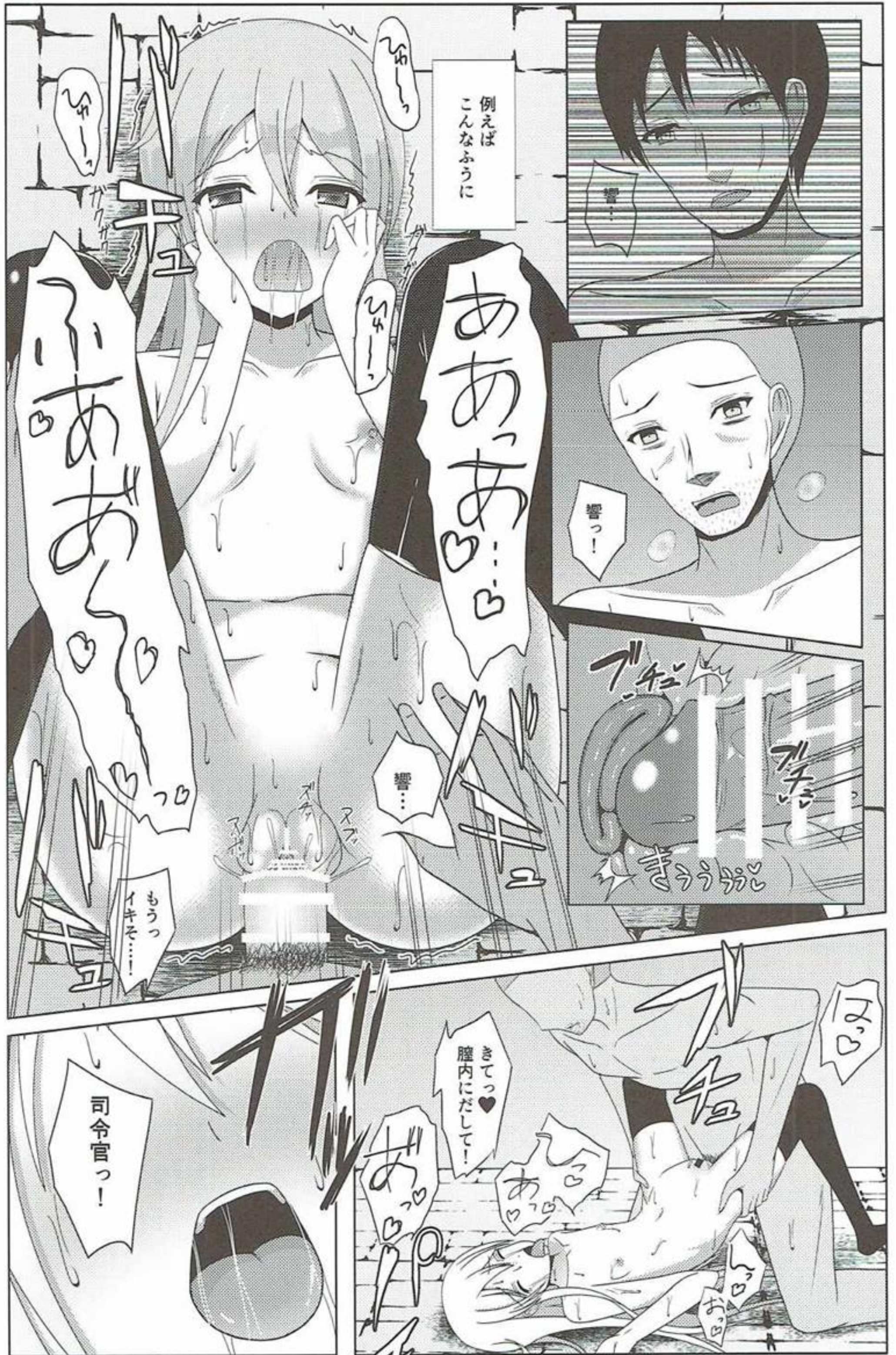
んっ……

あっ……

はあ……

もちろんだ





例えば
こんなふうに



キョ

あぁあぁ

あぁあぁ

響...

キョ

もじっ
イキネ...

司令官っ!

きょうらい
臆内だして!

あぁあぁ

あぁあぁ

キョ

あぁあぁ

あぁあぁ



……ねえ
逃げてきたんだろ？
収容所から

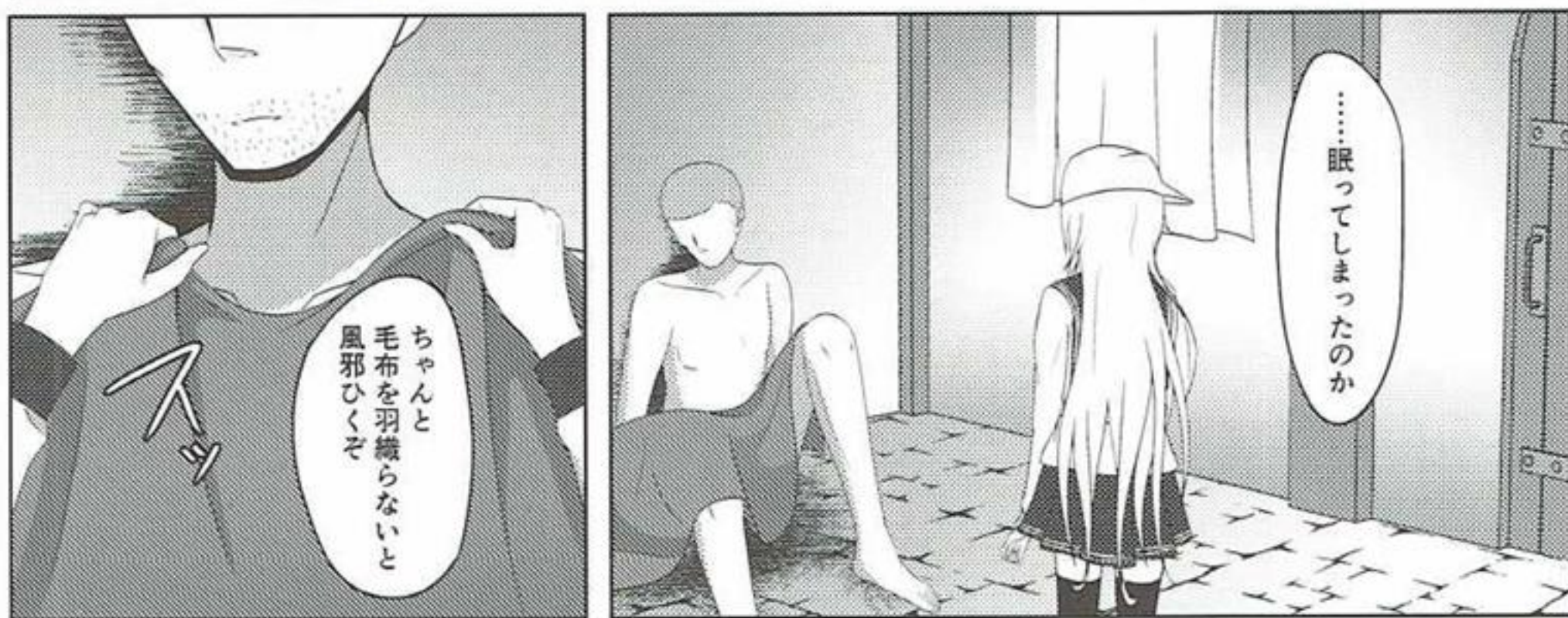
早く出て行った方がいい
ここにはじきに――

聞いているかい？



……眠ってしまったのか

ちゃんと
毛布を羽織らないと
風邪ひくぞ



響……
愛してる……

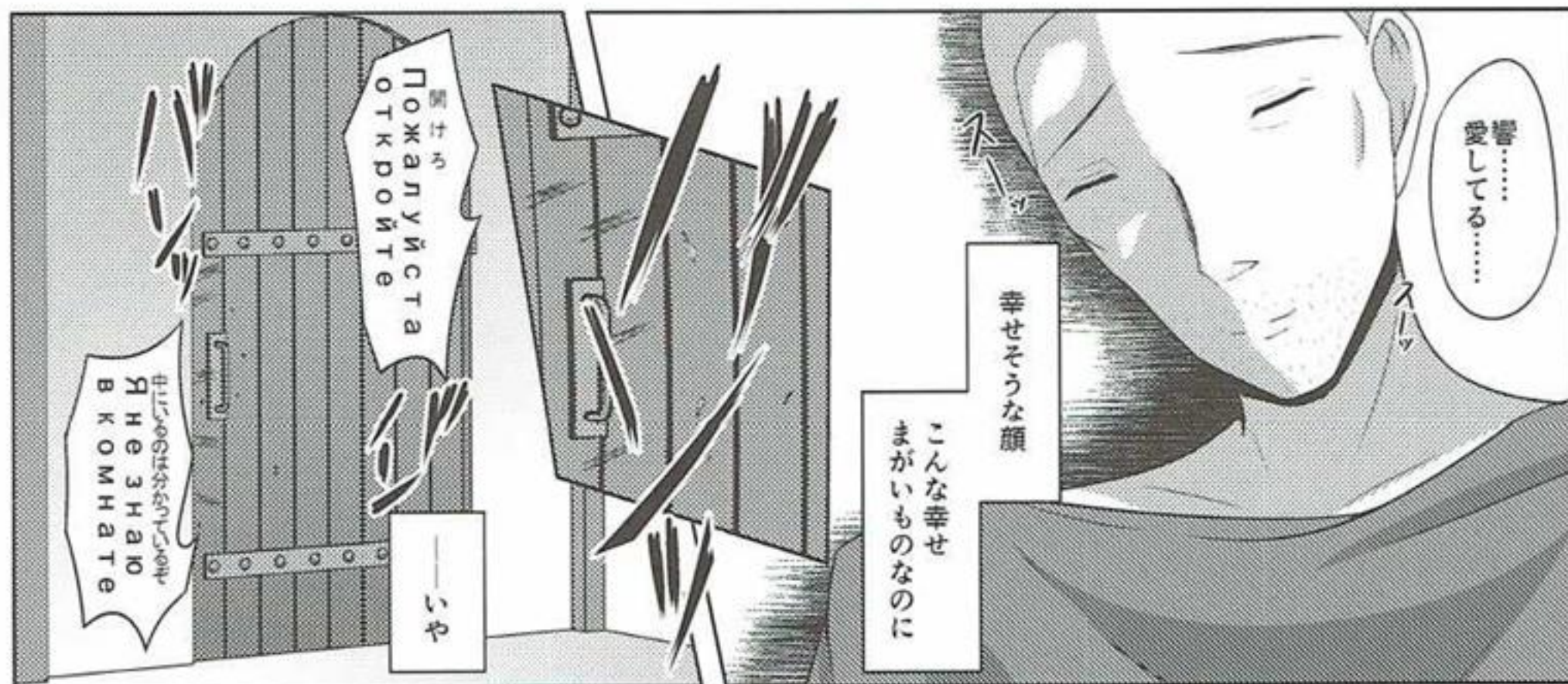
幸せそうな顔

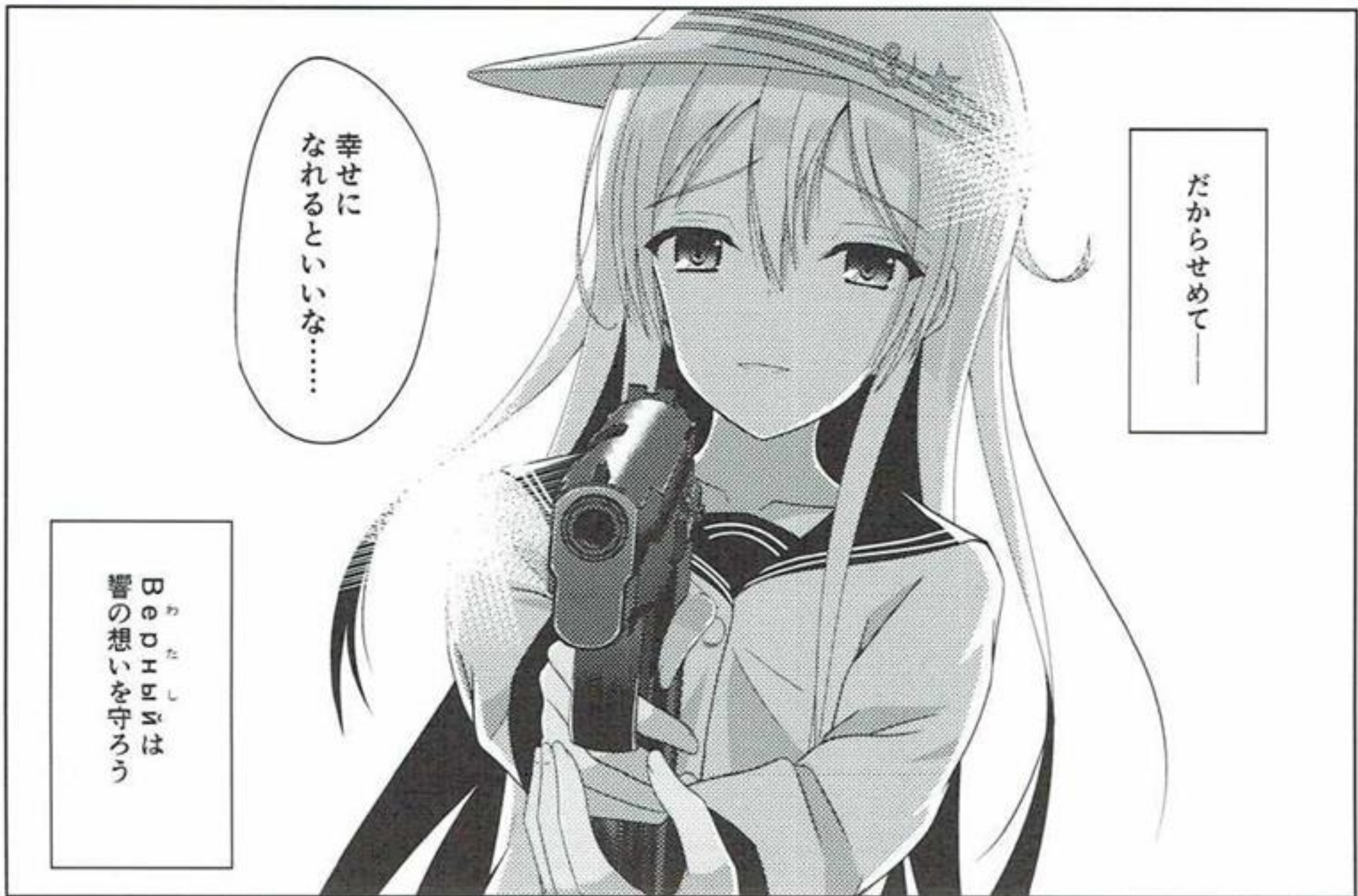
こんな幸せ
まがいものなのに

開きか
Пожалуйста
откройте

Я не знаю
в комнате

――
いや





遙か遠くのきみに

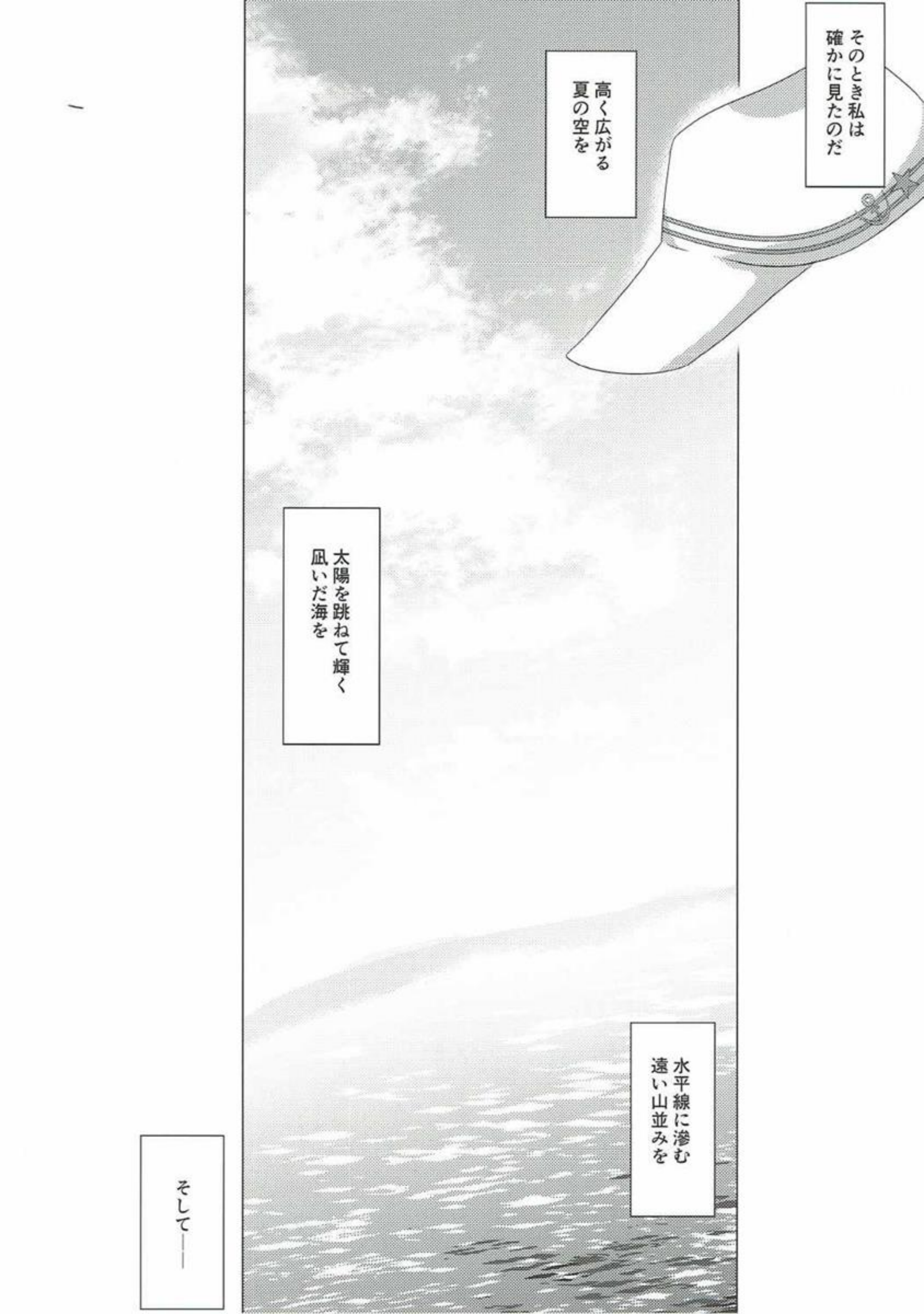


残響は届くだろうか



届くといいな





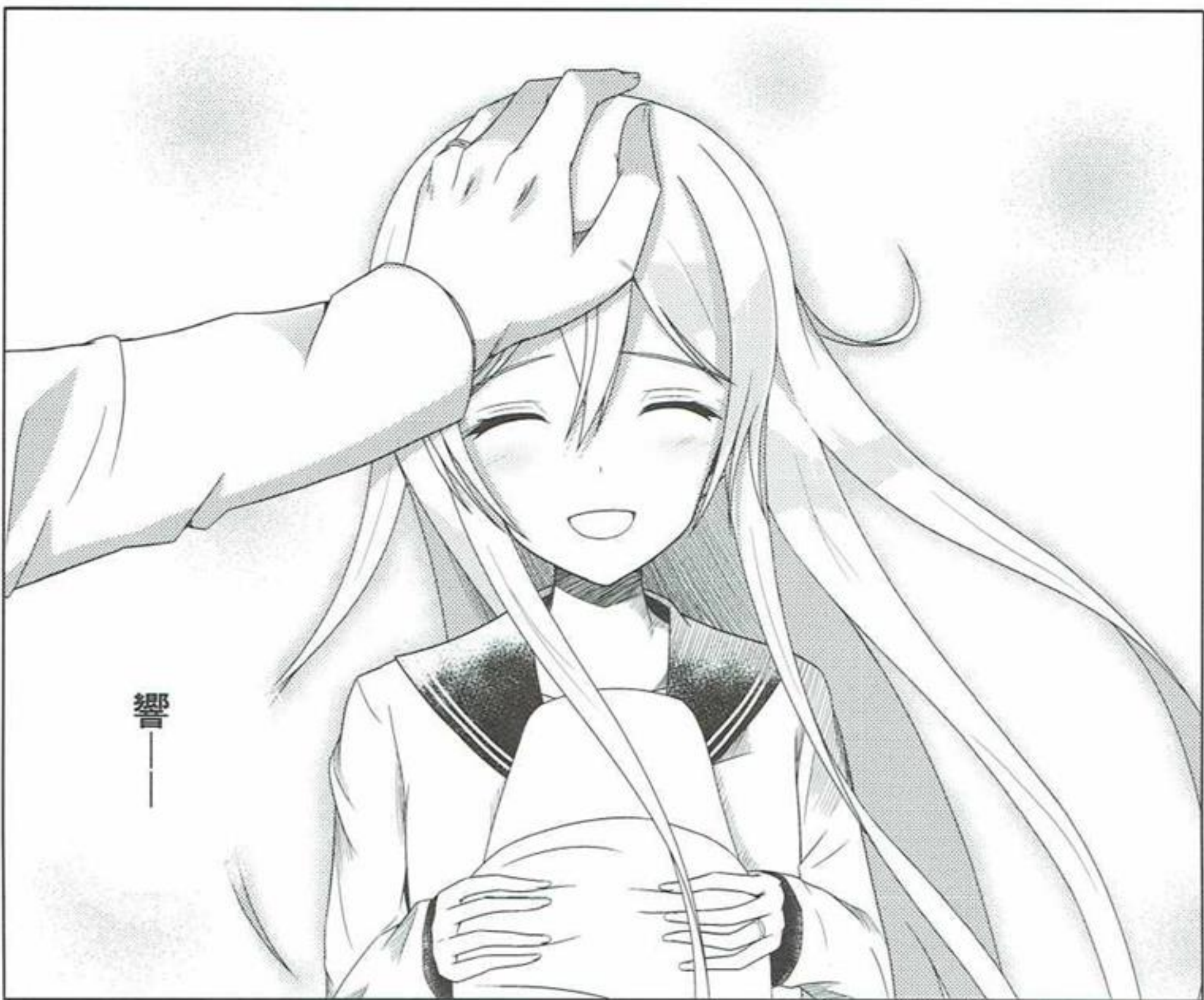
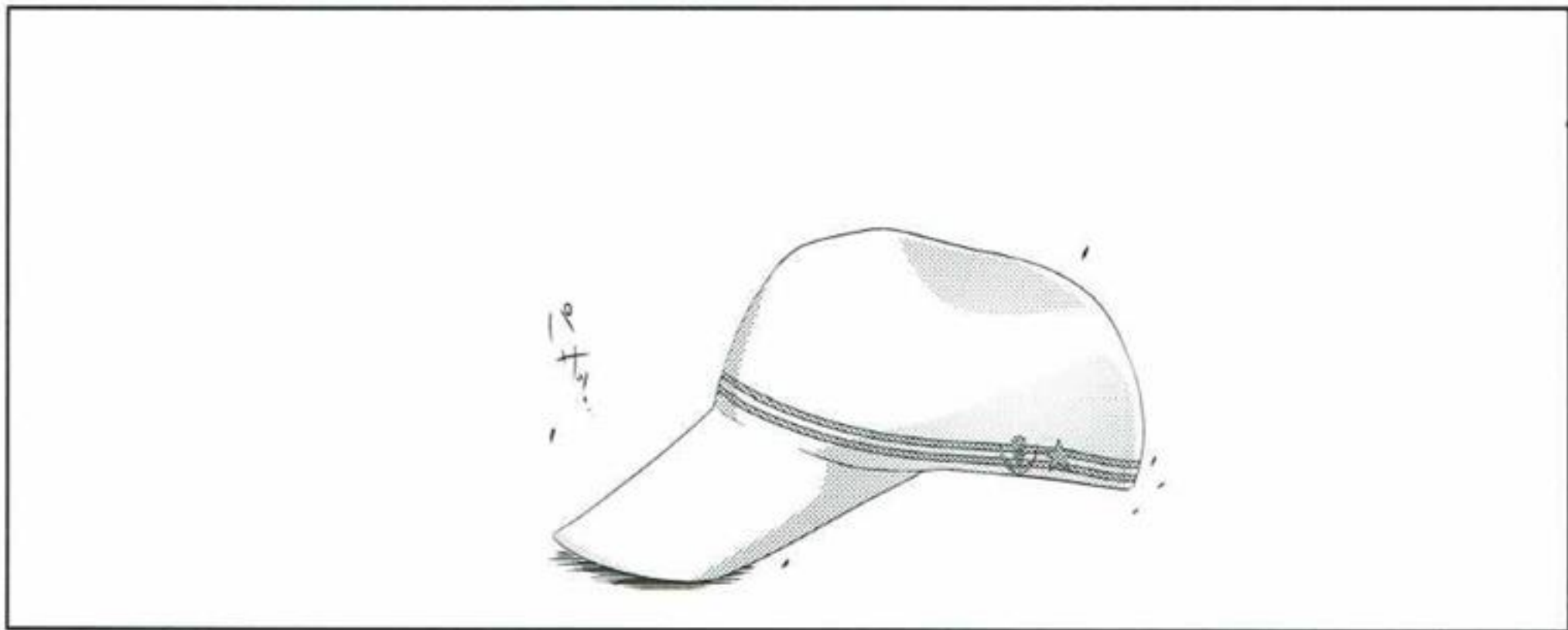
そのとき私は
確かに見たのだ

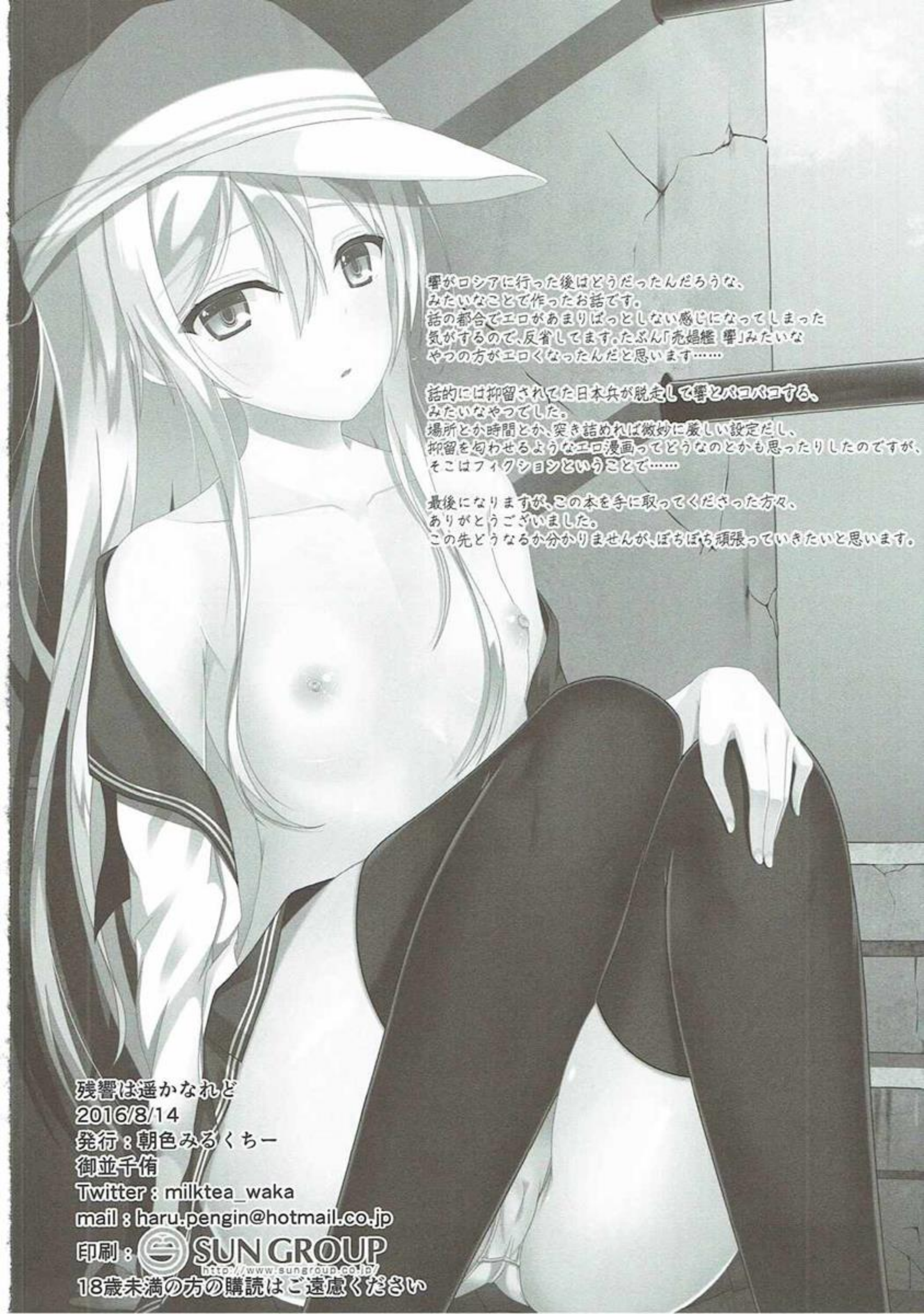
高く広がる
夏の空を

太陽を跳ねて輝く
凧だ海を

水平線に滲む
遠い山並みを

そして――





響がロシアに行った後はどうだったんだろうな、
みたいなことで作ったお話です。
話の都合でエロがあまりぱっとしない感じになってしまった
気がするので、反省してます。たぶん「売娼艦 響」みたいな
やつの方がエロくなったんだと思います……

話的には抑留されてた日本兵が脱走して響とバコバコする。
みたいなやつでした。
場所とか時間とか、突き詰めれば微妙に厳しい設定だし、
抑留を匂わせるようなエロ漫画ってどうなのとかも思ったりしたのですが、
そこはフィクションということで……

最後になりますが、この本を手にとってくださった方々、
ありがとうございました。
この先どうなるか分かりませんが、ぼちぼち頑張っていきたいと思います。

残響は遙かなれど


2016/8/14

発行：朝色みるくちー

御並千侑

Twitter：milktea_waka

mail：haru.pengin@hotmail.co.jp

印刷：  SUN GROUP

<http://www.sungroup.co.jp/>

18歳未満の方の購読はご遠慮ください

